

令和2年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
チームビルディング研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

当施設を利用する団体の指導者で仲間作りに興味のある方が、当施設で指導を行う際に効果的な指導を行い、活動の目的を達成するために、講義・演習を通して、技術や指導法を習得する。

2. 事業の概要

（1）期日

第1回（体験会） 令和2年12月5日（土）日帰り

第2回（指導者講習会）

令和2年12月12日（土）～13日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

当施設を利用する団体の指導者及び興味のある方

第1回（体験会） 32人

第2回（指導者講習会） 16人

② 参加者

第1回（体験会） 8人

第2回（指導者講習会） 16人

（3）講師

第1回（体験会）

講師：谷山 典（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職付主任）

貞方 貴衣（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職付）

第2回（指導者講習会）

講師：加藤 央 氏

（株式会社プロジェクトアドベンチャー ジャパン トレーナー）

（4）企画・運営のポイント

- ① 第1回及び第2回の指導時に、施設にある活動用具（教材）を多く取り入れることで、参加者が当施設を利用する際に、目的に応じた効果的な指導を行うための支援になるように計画した。
- ② 第1回の体験会では、PAJ（プロジェクトアドベンチャー ジャパン）の講習を受けた当施設職員が2名体制で指導にあたることで、スキルアップにつながる機会とした。
- ③ 第2回の指導者講習会では、PAJのスタッフが主体となるため、第1回の内容を事前に共有することで、参加者の指導の幅が広がるように計画してもらった。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動時に身体接触が少なくなるような内容を取り入れることや部屋の換気を徹底した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

① 第1回 (体験会)

12月5日 (土)	
9:00	受付
9:30	開会式
10:00	KAP (吉備アドベンチャープログラム) について 体験 (仲間作りゲーム)
12:00	昼食
13:00	体験 (仲間作りゲーム)
15:30	閉会式 解散

② 第2回 (指導者講習会)

12月12日 (土)		12月13日 (日)	
12:15	受付	6:45	起床・洗面・掃除
12:45	開会式	7:45	朝のつどい
13:00	講義・演習① (アイスブレイク他)	8:00	朝食
17:15	夕べのつどい	9:00	講義・演習③ (ローエレメント他)
17:30	夕食	12:00	昼食
18:30	講義・演習② (体験学習サイクル他)	13:00	講義・演習④ (指導者視点での質疑応答他)
20:00	入浴	16:00	閉会式
21:00	情報交換会		
22:00	就寝		

(2) 活動状況

① 第1回 (体験会)



【開会式】



【体験(仲間作りゲーム①)】



【体験(仲間作りゲーム②)】



【体験(仲間作りゲーム③)】



【体験(仲間作りゲーム④)】



【体験(仲間作りゲーム⑤)】

② 第2回(指導者講習会)



【講義・演習①アイスブレイク他】



【講義・演習②体験学習サイクル他】



【講義・演習③ローエレメント他】



【講義・演習③ローエレメント他】



【講義・演習③ローエレメント他】



【講義・演習④指導者視点での質疑応答他】

4. 成果・課題

(1) 満足度

- ① 第1回（体験会） 満足：100%
- ② 第2回（指導者講習会）満足：68% やや満足：32%

(2) 参加者の声

① 第1回（体験会）

- ア. 仲間と協力したからこそできる体験というのを子供たちにもさせてあげたいと思った。
- イ. 職場での学級づくりに生かしたい。また、学級だけでなく、教職員同士の関係作りでも生かせそうだと感じた。
- ウ. はじめは、お互いのことを探りながらの活動に参加していたが、活動を実施する環境の中で、参加者同士が同じ目的を持って取り組むことができ、仲間意識につながった。

② 第2回（指導者講習会）

- ア. 職場の人間関係、チーム力の向上に役立ってます。
- イ. 普段関わることのない年齢や職業の方たちと交流することで、新しい考え方を知ることができてよかった。

(3) 成果

- ① 第1回は、例年、1泊2日の日程で実施していたが、日帰りを実施することで、参加者の負担を減らし、参加に対する敷居を低くすることができた。
- ② 第2回の指導者講習会では、PAJ（プロジェクトアドベンチャージャパン）の講師に第1回の内容を踏まえた活動設定をしていただけたので、使用する教材などが同じ活動でも、バリエーションの変化を学ぶ機会となった。

(4) 今後の課題

参加者の参加目的と当施設の事業目的の不一致を感じるがあった。次年度からは、当施設の目的を再度明確にすることに加え、広報物（チラシ・開催要項）と申込フォームの内容を検討していく必要がある。

担当：企画指導専門職付主任 谷山 典